令和５年度　江戸川区立南小岩小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	よく考える子（重点）　思いやりのある子　たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「学校・家庭・地域が共に補い合い、三位一体で児童を共育する南小岩小」⇒【教育環境の創造】 「すべての児童が一つでも多くの自己実現を果たそうとする南小岩小」　⇒【学力向上】【心力向上】【体力向上】 【学力向上：授業で勝負する教師】【心力向上：児童の心の声を待つ・聴く・受け止める教師】【体力向上：心身共に健康な教師】
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞児　童：特別支援教育を推進することで、自他を思いやる心の醸成を育んでいる。校内研究を充実させることで、児童の主体的に学ぶ態度等の向上を図れた。 教　師：仮設校舎からようやく完成した新校舎に引っ越し作業を終え、全校児童を新校舎に入れて、新年度の教育活動を開始できたことが大きな成果である。 ＜課題＞児　童：児童の自己肯定感を高め、深い学びの充実を図る。学力や体力を江戸川区の平均以上にすることを目指す。 教　師：心身ともに疲労が蓄積したままの教師が多い。「誰もが働きやすい職場環境の創造」が最優先課題である。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	1　本校独自の学力調査（年間2回）に基づく、指導の改善 2　放課後補習教室（各学年年間30回以上） 3　授業で勝負実践（校内研究授業5回） 4　漢字検定やトミライシード内「ドリルパーク」を活用した基礎・基本の徹底 5　タブレット端末を活用した協働的な学びの実現	1　学校独自の学力調査は、第1回より第2回実施時の正答率を全学年3%以上向上 2　2学期末までに全児童の80%がベーシック診断シートで70%以上の正答率 3　各分科会ごとに研究授業（低中高専み） 4　ドリルパークの定着率が80%以上 5　タブレット端末を活用した授業を1日に1時間以上実施	B	B	○本校独自の学力調査を分析し、半数の学年が向上した。 ○タブレット端末を活用した授業を充実させ、特に、ミライシードを積極的に活用した授業をした。 ●ドリルパークの定着率を向上する手だてが必要である。	B	家庭学習をさらに充実してほしい。	・朝学習や家庭学習を中心として、「ドリルパーク」を全学年で推奨し、基礎的・基本的な学力向上を図っていく。 ・「ミライシード」等を効果的に活用した取組について、ICT支援員と連携し、さらに推進していく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	1　学校司書配置に伴い、読書・学習・情報等センター機能を図り、学校図書館の整備 2　読書科における、探究的な学習の実施 3　調べ学習コンクールへの参加	1　小岩図書館を連携し、学校図書館を使った授業を全学級年2回以上実施。 2　読書科における探究的な学習を全学年で年1回以上実施 3　調べる学習コンクールへの応募率を中学年以上で50%以上にする。	A	B	○調べ学習コンクールには。中学年以上で５０％以上出品できた。 ●学校図書館を使った授業は、低学年で数回行った。図書館司書との連携が不十分であった。	B	読書好きな子ども達をさらに増やしてくれるとよい。	・学校図書館司書と連携し、学校図書館の活用の充実をさらに図っていく。また、年間指導計画を見直し、全学年における探究的な学習の推進していく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	1　コーディネーショントレーニングの体育での実施 2　全校運動遊びの充実 3　体育授業の充実 4　食育・歯の健康	1　体力テストは、都や区の平均と比較し、全学年2種目以上向上 2　全校運動遊びを屋内運動場やみんなの広場を使用して、週1回実施する。 3　江戸川河川敷授業を各学年年間30回以上実施 4　食後の歯磨きを150回以上実施	B	B	○体力テストは、都や区の平均を全学年一種目以上上回った。 ○食後の歯みがきは、全校で取り組む意識が高まっている。 ●校庭が使用できないため、全校運動遊びの内容をさらに充実させていく必要がある。	B	校庭が完成した後の体力向上に期待している。運動好きな子ども達が多くなるとよい。	・日々の体育の授業改善及び運動遊びの充実を図っていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	1　特別な配慮を必要とする児童の指導方針、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級経営・授業の創造 2　みつばち学級と通常学級の交流	1　特別支援学級や特別支援教室の児童に加え、特別な配慮を必要とする児童の個別指導計画の作成を100% 2　みつばち学級児童との授業や休み時間の交流を全学年で月1回実施	B	B	○個別指導計画の内容等が充実した。 ○みつばち学級と通常学級との交流は、中学年以上の専科の授業では行えた。	B	学習発表会のみつばち学級のがんばりは素晴らしかった。全学年と交流する機会をもてるとよい。	・全学年で、学期に1回以上みつばち学級と通常学級との交流活動を行い、共同学習を充実させていく。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	1　学校の居場所づくり、絆づくりに向けた取組「hyper-QU」の実施 2　関係機関等と連携したケース会議の実施	1　保護者・地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答70%以上 2　その都度対応する。	B	B	●「hyper-QU」の結果を基にした手立ての構築が必要である	B	いじめはどこにでも起こりうるものとの考えで、指導にあたってほしい。早期発見・早期解決に努めてほしい。	・教職員間における「報・連・相」の徹底を図っていく。 ・ふれあい月間をはじめとして、学校全体で取り組める活動を推進し、子ども達の様子に気を配っていく。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	○　保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページの充実	○　月1回以上、更新する。	B	B	○昨年度以上に、学校ホームページの内容が更新できた。	A	学校の様子について、今後も分かりやすく伝えてほしい。	・学年の学校ホームページ担当を中心に、内容を積極的に更新していく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○　フォームズやテトルを活用した学校評価を計画的に進行	○　保護者、地域アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答80%以上	B	B	○学校公開は、フォームズを活用したアンケートを実施した。	B	アンケートの記名式は大賛成である。多くの意見を集めてほしい。	・すべての行事でフォームズを活用し、さらに項目も厳選していく。
特色ある教育の展開	＜心力の向上＞ ・心豊かな児童の育成	1　全教育活動を通した道徳教育の推進 2　家庭と連携した道徳教育の実践	1　全学級年間35時間以上の道徳授業 2　全体保護者会、道徳授業地区公開講座、学校だより巻頭言等で保護者に協力依頼	B	B	○全体保護者会及び道徳授業地区公開講座において協力依頼した。	A	道徳の講演会はとてもよかった。	・特別の教科　道徳の授業改善について、校内研究等をとおして充実させていく。
	＜心をこめた挨拶の励行＞	○　全教職員で挨拶の励行、校長は200日以上正門で出迎え	○　校長は、年200日以上、正門で「心をこめた挨拶」の率先垂範	A	A	○校長、専科主任による正門での挨拶励行は日々できている。	A	地域で見ていても挨拶ができる子が増えているように感じる。学校の努力に感謝する。	・教職員全体及び全校児童にも「心をこめた挨拶」を励行していく。